

ご挨拶

この展示を企画・実施する「里山シンポジウム実行委員会」は、多くの県民ボランティアが所属や立場を超えて集い、千葉県の上山を保全・再生し、立派な環境資源として、未来の子どもたちに引き継いでいくための課題に取り組み、シンポジウムや体験活動を6年間にわたって開催してきました。

その間に、私たちの関心は人里近くの山林、田、畑（里山）にとどまらず、川や海、沼や市街地の緑を拠り所とする沢山の生き物たちの、生命(いのち)のにぎわいやつながり、すなわち生物多様性の問題に拡大してきました。

人類社会は相対的、全般的には豊かになって来ましたが、人間という種の活動が、生物の多様性に最も大きな影響を与えており、急激な変化は、生物多様性を劣化させてしまっています。このままでは人類社会の持続も危ぶまれるということで、日本は各国間での生物多様性条約を批准し、地球規模での生物多様性戦略を推進する一員となり、国家戦略による対処も推し進めてきました。その中で、千葉県は、全国に先駆けて独自の「生物多様性ちば県戦略」を策定し、県民が主役の仕組みも作りました。

未来の子どもたちの可能性を私たちが奪っているのかもしれないのです。生物多様性を守り育て、それを未来に残していくには、私たちの意識やライフスタイルを見直す必要があるのではないのでしょうか。

そのためには、県民一人ひとりが生物多様性に関心を持ち、それぞれの取り組みが具体的なものとなり、継続する事によって、地域の中の共生と生業(なりわい)を成立させるレベルにまで人々の力を高めていく必要があると思います。

この展示が、生物多様性と私たちの未来について、みんなで一緒に考えていくきっかけとなるよう願っています。

この度、ご来館いただいた皆様、展示の機会を提供して頂いた千葉県立中央博物館、そして資金を助成下さった独立行政法人環境保全機構に深く感謝申し上げます。

里山シンポジウム実行委員会 代表 金親博榮